

[特集]疥癬(かいせん)

強いかゆみが続いたら**要注意!**

疥癬

かいせん

“かいせん”って
なあに?

「夜になると、かゆみで眠れない…」そのかゆみ、もしかすると疥癬(かいせん)かもしれません。
疥癬は、皮膚に寄生する小さなダニによって引き起こされる皮膚の病気です。人から人へとうつることがあり、特に高齢者の方は注意が必要です。正しい知識を持って、安心して毎日を過ごしましょう。



疥癬とは

疥癬は、ヒゼンダニという小さなダニが皮膚に入り込んで起こる病気です。ダニは目で見えないほど小さいため、自分では気づきにくいのが特徴です。
疥癬には、主に2つのタイプがあります。

通常疥癬

主な症状

- たくさんの赤いブツブツ
- とにかくかゆい

しやすい部位

- 顔や頭を除いた全身
- 特に、肌の柔らかい部分
- 指の間・わきの下
- おへその周り・股など

特徴

- 感染力は弱い
 - 夜間にかゆみが強くなる傾向がある
- 感染してから発症するまで、ダニの数によりますが、4〜6週間の潜伏期間があります。ダニの数は数十匹ほどです。

角化型疥癬

かくかがたかいせん

主な症状

- 皮膚がかさぶた状に厚くなる(垢が増えたような状態)

しやすい部位

- 全身・手のひら・足の裏
- 肘・お尻・爪など

特徴

- 感染力が非常に強い

角化型はダニの数が数百万匹にもなります。そのため、短時間の接触・衣類や寝具を介した間接的な接触でも感染します。また、皮膚からはがれ落ちた垢にも多数のダニが含まれており、感染の原因になることがあります。

ヒゼンダニって?

ヒゼンダニ(疥癬虫)とは、0.3〜0.4mmほどの肉眼ではほとんど見えない小さなダニです。ヒゼンダニのメスは皮膚に潜り込み、トンネルを掘りながら卵を産み付けて増えていきます。人の皮膚に住みつくことで強いかゆみを引き起こします。

通常、長時間肌と肌が直接触れることで、ヒゼンダニが移動して感染します。布団、シーツ、ベッドを共用することで感染することもあります。洋式トイレで感染することもあるので、注意が必要です。



診断と治療

診断

- 症状やかゆみの部位を確認
 - 顕微鏡検査
- 皮膚の一部をこすり取り、ヒゼンダニや卵の有無を調べる。

治療

ヒゼンダニを退治することを目的とした塗り薬。全身にくまなく塗る。特に手足、陰部には念入りに。

ヒゼンダニを退治することを目的とした飲み薬。1〜2回の内服で効果が得られる。かゆみに対しては、かゆみ止めの薬も使用。

飲み薬

治療を中断すると、生き残った疥癬虫が再度増えてしまいます。完治するまでしっかりと治療を続ける必要があります。



疥癬と診断されたら

- 寝具やタオルは使い回さない
- 部屋をこまめに掃除する
- 落ちた垢から感染することもあるので掃除機でいねいに除機でいてねい。
- 寝具や衣類は熱湯消毒するか高温乾燥機で処理
- 寝具(布団)は布団乾燥機を使用
- 50℃以上のお湯で10分以上消毒
- アイロンをかける
- バルサンなどで燻蒸(くんじょう)
- 塩素系消毒液、アルコール消毒は、疥癬には効果がありません。



医療機関を受診する際の注意

医療機関を受診する際は、必ず事前に電話で疥癬の疑いがあることを伝えてください。

他の患者さんへの感染を防ぐためにとても重要です。ご協力をお願いいたします。

疥癬は「ただの湿疹」「年齢による乾燥」と間違われやすい病気です。夜に強くなるかゆみや長引く皮疹があるときは、早めに皮膚科へ相談してください。(監修:皮膚科 石浦 信子)